



谷村 邦久

一般社団法人東北経済連合会 副会長

東北への加速器集積と 国際リニアコライダー（ILC）の実現に向けて

岩手県商工会議所連合会会長の谷村でございます。本年度から東北経済連合会副会長に就任いたしましたので、よろしくお願い申し上げます。

さて、現在、東北では加速器関連施設の建設が計画されております。

福島県では、新型の小型がん治療装置である BNCTがん治療器の開発に取り組んでおります。加速器で作る中性子ビームとアルファ線、ホウ素を利用した新しい手法のがん治療器で、装置の開発はかなり進んでおります。

青森県では、ITER関連施設の国際核融合エネルギー研究センターに大強度材料照射施設が計画されており、加速器が非常に重要な役目を果たします。

また、山形県では、重粒子線がん治療施設の整備に山形大学が取り組まれております。炭素イオンの加速照射装置を利用するもので、2018年の治療開始を目指す最高性能の先進がん治療装置となります。

宮城県においては、7月18日に東北放射光推進協議会が設立されました。放射光の建設は、東北初であり、約300mの最新円形加速器で、エレクトロニクスや医療など広範囲の産業利用と最先端の研究が期待されております。

また、秋田県では、秋田県立脳血管研究センターにおいて、ポジトロンCT装置、いわゆるPET検診などの先進医療に取り組まれております。

そして、国際プロジェクト『国際リニアコライダー（ILC）計画』があります。昨年8月23日、「ILC立地評価会議」において北上サイトが国内候補地として最適との発表がなされました。このことは、北上山地の強固な岩盤と東北が持つ高いポテンシャルが評価されたものと認識しております。これを受け、国では今年度の予算に、ILC計画に関する建設調査費を5千万円計上するとともに、文部科学省にILC計画についてのタスクフォースを設置したほか、「ILCに関する有識者会議」を設置し、5月から会合が始まりました。国際的にも、ヨーロッパとアメリカの研究者などから、日本建設への期待が非常に高まっております。

このように東北に加速器を集積させ、利用・定着させることは、超伝導技術、スーパーコンピューター、ナノテクノロジー、医療などの産業面での応用に飛躍的な発展が期待され、雇用創出、人材育成、地域振興に大きく寄与することになります。さらに、ILCが実現すれば、東北が最先端の加速器研究拠点となり、「国際学術研究都市」が形成され、我が国が標榜する「科学技術創造立国」を実現し、東北に明るい未来を切り拓くことができます。

この国際プロジェクトは、オールジャパン体制として計画を速やかに進めることが必要ですが、そのためには、まず東北全体が一丸となることが大切であり、そこから東北をどう変えていくかが非常に重要であると考えております。

将来にわたる東北の産業の育成、人材の育成のため、改めて、皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

（岩手県商工会議所連合会 会長・やむら くにひさ）